

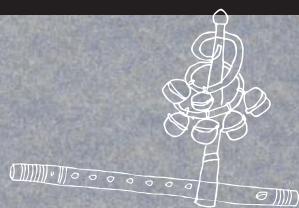


受け継ぐ 伝統の祭り 幸校区

先祖の故郷に思いを込めながら
郷土の祭り「花祭り」をここ豊橋で。

奥三河エリアの伝統的な祭りとして知られている「花祭り」。幸校区でも地域の伝統行事として「花祭り」が行われており、祭りに参加する鎌形さん。

花祭りに込める想いや歴史について紹介します。



Profile

鎌形 あゆみさん

生まれも育ちも幸校区。両親が奥三河出身で、花祭りには幼い頃から参加。現在は御幸神社花祭り幹事会のメンバー。

「私たちの誇り“花祭り”。これからも受け継いでいきたい。」

昭和31年の佐久間ダム建設により、豊根村の水没集落から多くの方が幸校区に移り住みました。移住者が開拓者の守り神として建立した御幸神社では、昭和31年から豊根村の伝統の祭り「花祭り」を開催し、今でも毎年1月4日に行われています。

「私の祖父は豊根村からの移住者。両親も奥三河出身だったこともあり、物心ついた時から花祭りに参加することが当たり前でした。結婚・出産を機に、花祭りから少し離れたましたが、また花祭りに参加したいと思い、お囃子

の一員として笛を吹いています。今では花祭りをやらないと1年が始まらないと思うほど魅力にハマり続けています。」

豊根村の花祭りと同様、赤鬼・青鬼が現れて鬼の舞が始まり、「テーホへ、テホへ」という掛け声と共に夜が更けていく。先祖の故郷に想いを馳せながら、地域に根付いた祭りは、今でも大切に受け継がれています。



地域の子も達も参加します。



花祭りに使用される横笛。

クラストコ対談
受け継ぐ伝統の祭り

幸 対談



御幸神社花祭り幹事会の女性メンバー

鎌形さん 当初、御幸神社の花祭りには男性と子どものみが参加していましたが、井上さんがお囃子の一員になったことで「女性でも花祭りに参加していいんだ!」と、私もメンバーに加わりました。

井上さん 私は豊川市から結婚と同時に幸校区へ移り住みました。花祭りは男性の祭りというイメージでしたが、夫や息子が参加している姿を見て、私も参加したい!関わりたい!と、お茶出しから始めました。代表に「お囃子をやりたい。」と志願し、認められた時はすごく嬉しかったです。

久野さん 私は豊根村出身で、今は別の校区に住んでいるのですが、花祭りがある幸校区の子どもたちに伝統を守ること、受け継ぐことの大切さをもっと知って欲しいと、花祭りの魅力を紙芝居にし、小学校で出前講座をしています。

井上さん 幸校区には開拓者の子孫と、新しく住み始めた人が混在しています。地域のおじいちゃんやおばあちゃんたちが、子どもたちを見守り続けている姿勢も、この地域の魅力かな。

久野さん 氏神様を祀る神社があるというのも素晴らしいことですよね。御幸神社に来るたびに、心癒されます。

鎌形さん 私もウォーキングする時に必ず立ち寄ります。地域の氏神様をこれからも大切にしながら、次世代に花祭りを受け継いでいきたいです。



井上 花純さん



久野 愛子さん



鎌形さん
イナオシ!



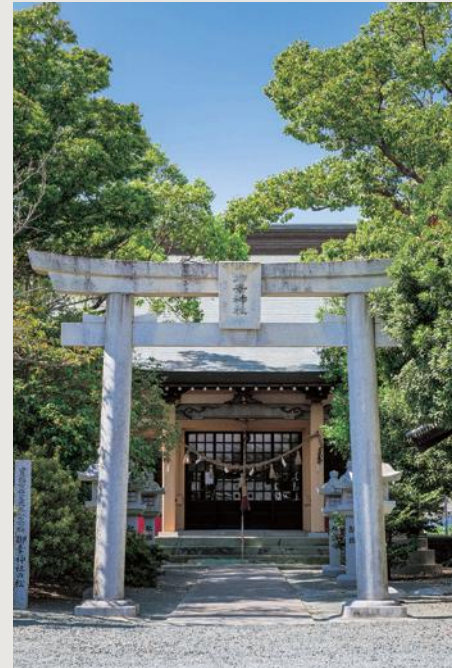
幸校区 おすすめスポット



心癒される御幸神社

三河国一之宮砥鹿神社を本社と仰ぎ、昭和24年に建立されました。

御幸神社 | 西幸町字古並240



境内 地元の人がお参りする姿も多く見られます。



石碑 境内には、開拓記念碑も建っています。



夕暮れ 御幸神社の木々から漏れる夕日は、地元でも人気。



鎌形さんにとって「支える」とは?

地域の人のつながりを深め、暮らしている街を大事にすることです。祭りを通して、先代の想いを受け継ぎたいと願う気持ちや地域への愛着が芽生えました。歳を重ねるごとに、人と人が支え合うことの大切さを体感しています。これからもこの校区を大事に想い、みんなで支え合っていきたいです。